

しんらん同人

No.589

11・12
月号

浄土真宗本願寺派 誓願寺

〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8

【電話】03-3950-7828 【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

われもひかりのうちにあり

誓願寺住職 古賀尚之

NHKテレビの「魔改造の夜」という番組をご覧になったことがありでしょうか。

「ロール式のトイレトペーパーを、途中で切らずにどれだけ遠くまで飛ばすことが出来るか」「2メートル程の脚立を、どれだけ早くまっすぐ自走させられるか」「ビニール傘をどれだけ長く空中に漂わせられるか」等々の珍問に全国の大学や超一流のメーカーの技術者が挑み、競争する番組です。

結果はどうあれ、数か月にわたり仲間たちとこの珍問に挑み続けた技術者達の熱意と困難に立ち向かった足跡には、日ごろ味わえない感動をいつも覚えます。

お寺を取り巻く状況は大きく変化しています、こうした中で、どうしたらお寺が皆さまの生活に融けこめられるのかという問題に日ごろ向き合っている、私にとりまして、この番組が与えてくれる感動の何か！は励ましになるものです。

皆様と色々相談しながら、お寺改造に取り組みたいと考えています。

報恩講

11月23日(日)午後1時

誓願寺にて

浄土真宗にとって
もっとも大切な仏事です。

どなたでもご自由におまいりください。



第四巻

一 慈悲に

聖道・浄土のかわりめあり。

聖道の慈悲

「ひとづつ」慈悲という言葉は同じでも、「聖道自力の道でいう慈悲と、浄土の慈悲には違いがあります。」「聖道の慈悲といふのは、自分の力で全ての生物を救われみ、」

「悲しい通りに救いを完結することとは、」

「おもいがごとくたすけとぐること、きわめてありがたし。」

浄土の慈悲というは、念仏して、いそぎ仏になりて、大慈大悲心をもつて、おもいがごとく衆生を利益するをいうべきなり。

私の大慈大悲の心によつて、

「悲しい通りに全ての生物をすくることが出来る」ということを確信することもあるのです。

今生に、いかに、いとおし不便とおもうとも、存知のごとくたすけがなければ、この慈悲始終なし。

しかれば、念仏もうすのみぞ、すえとおりの大慈悲心にてそうろうべきと云々

「救済した大慈大悲心」といふことが出来るのです」と。

「このように観望聖人からお聞きしました。」

誓願寺初代住職

故 岡本泰雄

” 自力と他力 “

（「法味抄」より抜粋）

◆ 真宗は、始から終まで他力である。一心に弥陀をたのむと言っても、自分が賢くてたのむのではない。過去の宿善によつてたのむようになったのであるから始終他力である。

◆ 自力の人の念仏は、仏をさしのけて西方浄土を念じ、自分のことは知らないふりをしながら、時々仏の他力を思つて念仏するのであるから、自分と仏とは離れてしまい、少しでも道を求める心が起れば浄土に生まれるに違いないように思い、なかなか念仏も称えられず、道を求める心がさめた時には、浄土に生まれるという自信を失う。

◆ 凡夫の心としては殊勝に道を求める心が起こることはめつたにないのであるから、いつもは浄土に生まれるという自信がない。そのうちに浄土に生まれるという確信が出来そうなものと考えながらも、臨終まで確かにすることが出来ないのであるから、口には念仏を称えながら、本当に安心することが出来ない。自力念仏の人はあたかも人に仕える人の気持ちに似ている。

◆ それは、どうすれば仏の心にかなうのであろうかと思ひ、仏に追従して浄土に生まれさせて貰うように思うのであるから、自分の心と仏の大慈悲心とが離れ離れになってしまうのである。このようなことではまことに往生間違ひなしとは言われない。

◆ 念仏三昧とは、弥陀の願行は迷ひの衆生のためになされたもので、仏の方より衆生救済の願行を成就して、南無阿弥陀仏と成つて下さったものであるから、凡夫と仏とは離れることとはないと信知することである。救ひの願も、救われる願も、救われる行も、すべて仏の方から成されたものであるから、拝む手も、称える口も、信ずる心も、みな他力と言われるのである。

副住職
法話

誓願寺 副住職 古賀明德

大切な悲しみ
・ 苦しみ

先日、築地本願寺の常例布教にて、お話をさせて頂きました。あまり難しいお話はできませんので自分が今までの人生の中で体験、特に大切な方とのいのちの別れの中で阿弥陀様で良かったなと思つたお話をメインにお取次ぎさせていただきました。どんなことでも話すことのできた親友、いつも笑顔でいろいろなことを教えて下さつた先生、心から愛することのできた人。今でもその方々の事を偲ぶと辛くて寂しい、会いたいという気持ちが湧くけれども阿弥陀様と出合うことができて良かったというお話。

そんなお話をする中で一人の男性が私と話がしたいという事で布教が終わつた後訪ねて来てくれました。その男性は五十代ほどの方で先日中学生になった娘様を病氣のためにいのちのお別れを経験されたという方で、私の法話を良いと思つてくださったらしく娘さんの事について改めて何か聞かせてほしいという事でした。でも、私、そ

の方にほとんど何もお話す事ができなかったのです。本当に大切な大好きな方とのいのちのお別れを迎えた時、どんなに阿弥陀様の事をお聞かせいただいても、大切な方は仏様に成って傍に居てくれるのですよとお聞かせいただいても、本当にそれを心から喜んでいく事はできない、会いたい、話したい、抱きしめたいという気持ちの方がずっとずっと大きいという事を私自身も今までの経験の中から十分に知っていたからです。

この世界において人間として誰もが抱えていかなければならない四苦八苦、その中でも第三代宗主覚如上人は「愛別離苦」愛する人との別れの悲しみが人間にとって一番大きい悲しみであるとお示しく下さいました。覚如上人は宗祖親鸞聖人のお心をそのまま引き継がれた方だとも言われています。きっと親鸞聖人も同じように感じられていらつしやったのでしょうか。

そんな中で私はそれでも「阿弥陀様で良かったですね。」とお声掛けさせていただきました。み教えを、阿弥陀様のお心をただだけお聞かせいただいても私たちの悲しみや苦しみは無くなることはありません。

でも、その悲しみや苦しみが私たちに大切なことを改めて気付かせてくれる「大切な悲しみ・苦しみ」に変わっていくのです。本当に辛くて寂しくて・・・そんな気持ちの中に、本当に少しではあるけれども安心できる気持ちが生まれてくるのです。

親鸞聖人もその人生の中で師である法然聖人を始めとして、たくさんの法友仲間とのちのお別れを経験されたことをたくさんんの書物に表してくださっています。阿弥陀様を誰よりも喜ばれていた親鸞聖人。それでも本当に大切に思う方とのいのちのお別れは間違いない、辛く悲しいものだったでしょう。きっとその辛さや悲しみに中で改めて阿弥陀様の事を思わせていただき喜び安心していくことができた。その喜びや安心をこれからの時代に生きる多くの方々と共に味わっていききたい。だからこそ浄土真宗というみ教えを私たちに残して下さいたのではないかなと思うのです。

五月に私も大好きだった大阪の若林先生がこの世界でのいのちを終えられ仏様と成られました。その葬儀でお話くださった天岸先生のお話。その一言目は師である梯先生が仏様と成られたときに仰られた「お

めでとうございます！」だったそうです。きっと天岸先生も梯先生、若林先生とのお別れは本当に本当に辛く悲しいものだったのでしょうか。目に涙をいっぱい貯めていらつしやつたとのことでした。

十一月から浄土真宗で最も大切な「報恩講」が各寺でお勤めされます。私たちと阿弥陀様を会わせてくださった宗祖親鸞聖人のご恩を感謝させて頂く法要です。大切な方とのいのちを通じ阿弥陀様と出会わせてくださった親鸞聖人に感謝させて頂く法要です。どうぞ皆様、是非参加されてください。お待ちしております。

合掌



ご法座等
のご案内

どなたでもご自由にご参加いただけます。
参加費は無料です。

11月

11・9 (日)

■午前十時～

定例法座

【三島晃真師（鹿児島県）】

■正午～

医療相談

【佐藤公彦医師】

医療相談終了後に軽食を取り、本堂の掃除、仏具等のお磨きを行います。

11・16 (日)

■午前十時～

なかよしクラブ

（乳幼児から小学生までとその保護者）

11・23 (日)

■午後一時～

報恩講法要・祥月命日合同法要

【村田朝雅師（大阪府）】

12月

12・14 (日)

■午前十時～

定例法座・祥月命日合同法要

【田坂重紀子師（山口県）】

■正午～

医療相談【佐藤公彦医師】

12・21 (日)

■午前十時～

なかよしクラブ

（乳幼児から小学生までとその保護者）

12・31 (水)

■午後十一時～

除夜会

年越しの鐘を撞きます。
ご自由にご参加ください。

1月

1・1 (木)

■午後一時～

元旦会

12月の第4日曜日
(12/28)の法座は
ありません。

編集後記



先月傘寿を迎えました。坊守は四歳年下で〇〇歳相変わらず元気です。二人の話題と云えば孫の事ばかりですので、孫馬鹿ですが写真を掲載いたしました。ベトナム在住の孫はダンス教室の発表会、運動会のプログラムに作品が掲載されました。大泉の孫も伸び伸びと育っています。



〔ソーラン節 (大泉・5年生)〕



〔運動会のプログラムに掲載された作品〕



〔ダンス (大泉・1年生)〕



〔ダンスの衣装を着た一番上の孫〕



〔孫からもらった傘寿のプレゼント〕